

あまべ牡蠣のスマート養殖プロジェクト

提案者	株式会社リブル		
実施地域	徳島県海陽町	分野別モデル	スマート農業・林業・水産業
事業概要	牡蠣養殖へのICT活用により、遠隔で養殖場の環境情報を把握可能とすることで、省力化と安定した生育管理を実現する。また、収集したデータを分析することで、新規就業者や高齢漁業者でもオペレーションが可能な「勘と経験によらない養殖」を目指す。		

- 海陽町の主要産業は漁業(就業者の比率は全国比22倍)だが、**人口は1950年から半減/高齢化率42%**
- **地域を持続的に維持するには安定かつ効率的な漁業の実現が必要**
⇒「**計画的に育てる漁業**」を目指し、**牡蠣養殖の事業化に取り組む**
- しかし、海陽町の澄んで綺麗な海洋環境では、一般的な「イカダ垂下方式」では牡蠣が上手く成熟しない
⇒海の養分を効率的に吸収させる「**シングルシード生産方式***」を採用することで**質の高い牡蠣の養殖に成功**
※牡蠣をカゴに入れてバラバラに養殖する方式で、牡蠣同士がぶつかりあい、均一で身入りの良い牡蠣ができる



課題	具体策 ※小浜市「「鯖、復活」養殖効率化プロジェクト」の横展開モデル	解決法	目標
<p>この養殖方式は、水温や天候に適した世話が重要で、名人漁業者頼りで事業拡大に限界</p> <p>牡蠣の生育に応じてカゴを振分けるため、カゴ毎の状況把握が必要で管理に手間がかかる</p> <p>牡蠣の生産性は、海外と比べてまだまだ低い (出荷までに4割が死んでしまう)</p>	<p>環境データを見える化するIoTセンサーの導入</p> <p>PCやスマホで環境・生育状況を共有できる仕組み</p> <p>作業と環境情報による生育状況の関係性分析</p>	<p>環境情報を正確に把握し、全就労者が共通した基準で判断できる</p> <p>管理方法の省力化、マニュアル化を行い、生産性を向上させる</p> <p>環境情報に基づいた効率の良い生育ノウハウを確立する</p>	<p>事業拡大 5年間で 出荷量 5倍 (令和6年30万個)</p> <p>作業時間の削減 188時/年</p>

徳島大学によるデータ分析